

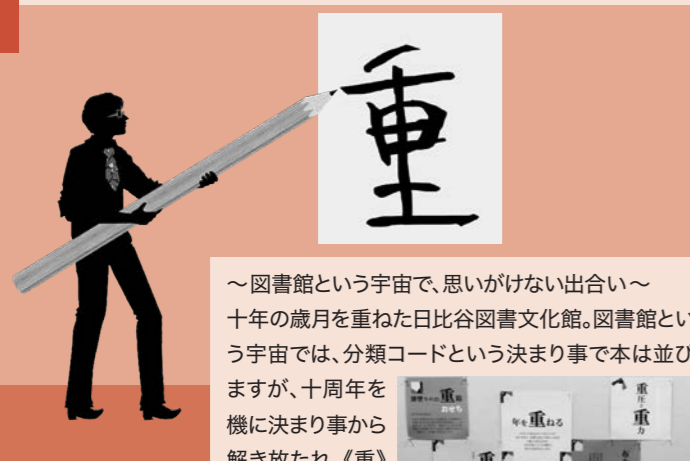
展示 PICK UP

■3F エレベーターホール ~12月26日(日)

【日比谷図書文化館 開館10周年記念展示】

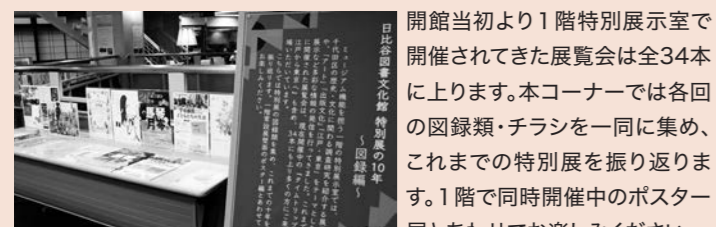
知を重ねる十年を重ねる

「重」からひもとく十の知を集める



～図書館という宇宙で、思いがけない出会い～
十年の歳月を重ねた日比谷図書文化館。図書館という宇宙では、分類コードという決まり事で本は並びますが、十周年を機に決まり事から解放された、「重」という文字に惹かれ合い、「重」にまつわる十のテーマで引き寄せ合い、集まりました。いつもの分類では決してとなり同士に並ばない、十年を重ねたいまだけの巡りあわせをお楽しみください。そしてデジタルにない本の重さも感じてみてください。

日比谷図書文化館 特別展の10年～図録編～



年表と資料で振り返る 日比谷の10年

日比谷図書文化館の10年を年表で振り返ります。図書館の歩みとその時々のお出来事と一緒にご覧いただき、この10年を感じる事が出来る展示です。皆様に図書館への親しみを感じていただければ幸いです。

『もうなつかしい平成の年表』
●清水 義範 著
●講談社
●2000年

■3F グリーンゾーン ~2022年/1月14日(金)

装い～身にまとう表現～

「装い」は、自身のルーツやアイデンティティを表現するものとして、常に変化してきました。近年、「パーソナルカラー」など、より輝くためのキーワードが生まれる一方、衣服の大量廃棄や、ジェンダーの壁といった課題にも直面しています。全ての人が身近なものとして楽しむために、「装い」の過去と未来を学ぶ展示となっています。

『だから私はメイクする』
●劇団雌猫 編著
●柏書房
●2018年

『シンプルなクローゼットが地球を救う』
●エリザベス・L・クライン 著
●加藤 輝美 訳
●春秋社 ●2020年

12月の展示情報 ※展示情報は変更する場合がございます。

2F パーブルゾーン 『江戸書物大全』(～2022/3/18)
江戸時代に開花した文化のひとつである【出版】。印刷技術の発達により書籍が流通し、本を読むことが庶民の間に広まったのはこの頃からと言われています。本展示では当時の人気作家やベストセラー作品のほか、印刷や流通など江戸の出版事情について特集します。

2F パーブルゾーン 1階特別展「江戸から東京へ」関連図書展示 『東京遷都 一近世から近代へ』(～12/19)
日本は明治維新によってゆるやかに変化しました。本展示では、江戸から東京へ様変わりした当時の世の中の様子や、近代化・西欧化の道を進みはじめ、その後訪れた文明開化での人々の生活の様子など、激動の時代における日本の変化について取り上げた本を紹介します。

3F ブルーゾーン 『ミステリーの誘惑』(～2022/2/18)
謎が解き明かされていく様子を追うだけではなく、隠された真実やトリックを深く読み解くことが推理小説の醍醐味の一つです。「深読み」で更に面白くなる作品をジャンルごとに集めました。多種多様な推理小説をご堪能ください。



↑東京駅丸の内駅舎 建築模型制作:今村仁美(アトリエイマージュ) 撮影:森賢一(Graphes)

↑台湾総督府専売局(台湾拓殖画帖) / 台湾拓殖画帖刊行会編 / 1918年 設計:森山松之助



開催中～ 12月28日(火)まで

◆開室時間: 平日…… 10:00～20:00
土曜…… 10:00～18:00
日・祝…… 10:00～16:00
※休館日: 12月20日(月)
◆会場: 4階特別研究室 ◆入場無料

展示図書 『工学博士 辰野金吾伝』(白鳥省吾/辰野葛西事務所/1926年)
『南満洲写真大観』(金澤求也/満洲日日新聞社/1911年)

パネル写真所収図書 『台湾拓殖画帖』(台湾拓殖画帖刊行会/1918年)
『帝国鉄道協会会報 第13巻』(帝国鉄道協会/1912年)
『日本写真帖』(田山宗堯/とよみ商会/1912年) ほか

calendar 開館時間: 平日10時～22時 ■土曜10時～19時 ■日祝10時～17時 ■休館日

2021年12月							2022年1月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3	4						1
5	6	7	8	9	10	11	2	3	4	5	6	7	8
12	13	14	15	16	17	18	9	10	11	12	13	14	15
19	20	21	22	23	24	25	16	17	18	19	20	21	22
26	27	28	29	30	31		23	24	25	26	27	28	29

掲載されている内容について変更や中止となる場合があります。最新情報は、ホームページ等をご確認ください。
お問合せ先: 千代田区立日比谷図書文化館 〒100-0012 千代田区日比谷公園1-4 TEL:施設代表 03-3502-3340 図書総合カウンター 03-3502-3343 URL: https://www.library.chiyoda.tokyo.jp/hibiya/

information 部分(図書フロア)休館のお知らせ
2022年1月15日(土)、16日(日)
図書の特別整理を実施するため、2階・3階の図書フロア部分を臨時休館します。期間中は、フロアの立入りが出来なくなる他、図書の貸出・閲覧席の利用などができなくなります。本の返却は1階エントランスおよび国会通り側ブックポストをご利用ください。(一部資料を除く)図書フロア以外の施設は通常通りご利用いただけます。※1月17日(月)は全館、休館日です。(文化財事務局は除く)
access 〔都営地下鉄〕●三田線「内幸町駅」A7出口 徒歩3分
〔東京メトロ〕●丸ノ内線●日比谷線「霞ヶ関駅」B2出口徒歩3分
●千代田線「霞ヶ関駅」C4出口徒歩3分 ●JR「新橋駅」徒歩10分
※当施設に駐車場・駐輪場はございません。公共交通機関をご利用下さい。

◆特別研究室企画展示◆

内田嘉吉文庫に見る 近代建築の父・辰野金吾と海を渡った建築家たち

12・1月の講座

〈参加申込〉電話(03-3502-3340)またはホームページにて、講座名、お名前(よみがな)、お電話番号をご連絡ください。各講座ともに定員になり次第、締め切らせて頂きます。キャンセルの場合はご連絡ください。参加費は当日支払いです。**千代田区民料金のある講座は、当日、図書貸出券や健康保険証など住所が確認できるものをお持ちください。**

▶「日比谷カレッジ」とは、日比谷図書文化館が主催・共催で行うセミナーやイベントです。「江戸・東京」「本」「スキルアップ」「芸術」「センスアップ」の5つのカテゴリに基づき、さまざまな「学び」と「交流」の場を提供します。

12/2 (木)他 <日比谷オペラ塾>香原斗志が語る短期集中講座(全2回) 名作オペラヒロインの実像

名作オペラのヒロインの実像に迫る全2回講座です。前編『椿姫』ではヴィオレッタが息絶える前に叫んだ「もう一度生きるんだわ、うれしいわ」の言葉の意味を解き明かします。後編『蝶々夫人』では、蝶々さんが愛児を残して自死した真相を究明し、<蝶々夫人>というオペラの新しい見方を解説します。(主催:フェニーチェ劇場友の会、共催:日比谷図書文化館)

- 日時:前編:『椿姫』のヴィオレッタの真実 12月2日(木)14:00~15:30(13:30開場) 後編:『蝶々夫人』の蝶々さんの真実 12月21日(火)14:00~15:30(13:30開場)
- 会場:地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員:各回60名 ■参加費:各回1500円

12/4 (土) 半藤一利『焼けあとのちかい』に学ぶ 一開戦日12月8日を前に

講師:塚本 やすし(絵本作家)、藤代 勇人(紙ヒコキ舎主宰)、村山 祐季子(ゆきこミュージックスタジオ主宰)

今年1月に亡くなった半藤一利。戦史や近現代史の研究者としての地位を築き上げた。絵本形式の『焼けあとのちかい』は、半藤の遺書と言っていい一冊である。太平洋戦争の開戦日直前に半藤を偲んで著書を朗読する。また、塚本の戦争関係の著作にも触れ、平和の尊さを伝える。



塚本やすし



藤代勇人



村山祐季子

- 日時:12月4日(土)14:00~15:30(13:30開場)
- 会場:地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員:100名 ■参加費:1000円(千代田区民500円) ※千代田区民親子連れ500円(同伴のお子様1名様に限り無料)

12/5 (日) 古書で紐解く近現代史セミナー第38回 大連の成立一満洲経営の中心地はどう造られたのか

講師:長谷川 怜(皇學館大学文学部国史学科助教)

日露戦争の結果、日本は中国東北部(満洲)で勢力範囲を拡大しました。遼東半島の先端部に位置する大連は日本の大陸進出の拠点として満鉄による都市建設が行われ、有数の近代都市が成立します。大連の歴史を、都市計画、建築、鉄道、観光などのキーワードから読み解き、また戦前と現在の連続性についても解説します。



大連ヤマトホテル 『南満洲鉄道株式会社第二次十年史』/南満洲鉄道株式会社編(1928年)

- 日時:12月5日(日)14:00~15:30(13:30開場)
- 会場:地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員:100名 ■参加費:1000円(千代田区民・学生500円) ※学生の方は、当日、受付で学生証をご提示ください。

12/19 (日) シリーズ:女性たちの芸術 第1回 フェミニズム/ジェンダーから見る女性画家たちの「戦争」

講師:吉良 智子(美術史・ジェンダー史研究者)

近年、フェミニズムやジェンダーへの関心が高まっています。美術史における展覧会や研究対象は男性アーティストたちが中心です。なぜ彼らが中心で、なぜごく一部の女性しか知らないのでしょうか。こうした問いを背景に、アジア・太平洋戦争期の女性画家たちは何を描き、時代をどう捉えていたのか、作例を紹介しながら考えていきます。



《大東亜戦皇国婦女皆働之図》<春夏の部>1944年 吉良智子『女性画家たちの戦争』(平凡社新書、2015年)より引用

- 日時:12月19日(日)14:00~15:30(13:30開場)
- 会場:地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員:100名 ■参加費:1000円

1/8 (土) 千代田区民講座 おいしい打楽器アラカルト2

講師:梅津 千恵子(打楽器奏者)

豊潤なマリンバのサウンドとリズムカルなパーカッションで新春に相応しく華やかにエネルギー・チャージ。パッパからアフリカン・ブルース、そして日本の歌まで。パーカッションの基礎的な打ち方や名曲の演奏体験で、心がウキウキするリズムを皆さんと一緒に楽しみましょう。(主催:NPO法人 神田雑学大学、共催:日比谷図書文化館)



- 日時:1月8日(土)14:00~15:30(13:30開場)
- 会場:地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員:60名 ■参加費:無料 ※千代田区民は2021年11月20日(土)から受付開始。区民以外は11月27日(土)から受付開始

1/14 (金)他 信長・秀吉の真実(全2回)

講師:堀 新(共立女子大学文学芸学部教授) 織田信長・豊臣秀吉は、ともに「歴史上好きな人物」の1、2位を争います。それくらい人気がありますが、われわれは信長・秀吉の真実の姿を知っているのでしょうか。世間に流布している人物像の大半は、後世の軍記物語や歴史小説で作り上げられたものです。本講座では一級史料にもとづいて、意外な一面を浮き彫りにします。

■第1回「信長の真実」

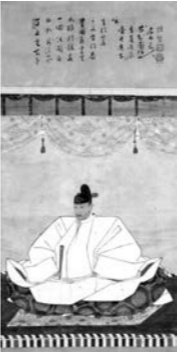
1月14日(金)14:00~15:30(13:30開場) 鳴かないホトトギスを「殺してしまえ」と言うほど短気で暴力的なイメージのある信長ですが、実は意外と保守的で我慢強い一面があります。上位者に対する辛抱強さ、意外な権威主義など、少しガッカリする信長の一面をご紹介します。



織田信長画像(東京大学史料編纂所蔵模写)→

■第2回「秀吉の真実」

1月21日(金)14:00~15:30(13:30開場) 豊臣秀吉ほど、江戸幕府を正当化する「徳川史観」によって歪められた人物はいません。天正12年(1584)の小牧・長久手の戦いは秀吉の負け、翌天正13年の関白任官は将軍になれなくて仕方なくとされていますが、はたして本当でしょうか。



豊臣秀吉画像(東京大学史料編纂所蔵模写)→

- 会場:地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員:各回100名 ■参加費:各回1,000円

1/16 (日)他 <日比谷オペラ塾>堀内修が語る短期集中講座(全2回) バロックオペラの大家モーツァルトの知られざる傑作

講師:堀内 修(音楽評論家)

モーツァルトといえば『フィガロの結婚』や『魔笛』などが代表的なオペラとして親しまれていますが、モーツァルト・オペラの本当の魅力は、現在ではあまり上演されないミラノ初演のバロックオペラや中期の傑作『イドメネオ』の中にあります。それらの知られざる作品を紹介しながら、モーツァルト・オペラを新しい視点から解説します。(主催:フェニーチェ劇場友の会、共催:日比谷図書文化館)

■日時: 前編:「ミラノで初演された3つのオペラ」の魅力を探る 1月16日(日)14:00~15:30(13:30開場)

後編:モーツァルトの本当の傑作は『イドメネオ』だった 1月23日(日)14:00~15:30(13:30開場)

- 会場:地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員:各回60名 ■参加費:各回1500円

千代田区立日比谷図書文化館 開館10周年記念特別展

タイムトリップ 開催中~ 12月19日(日) 江戸から東京へ ~資料で綴る千代田の風景~



千代田御表図 山王祭礼上覧

MERRY CHRISTMAS!!

今年も日比谷図書文化館にクリスマスツリーがやってきました。日比谷界限でもイルミネーションが輝き始め、一年でいちばん街が美しく光り輝く季節です。寒い季節のイルミネーションは、見るだけで心を温かく幸せな気持ちにさせてくれます。1階の受付・コンシェルジュでは、近隣のイルミネーション情報をご案内しています。~12月26日(日)

From Chiyoda Public Library ■千代田区立図書館からのおしらせ

展示 **続きが気になる!!**

名作シリーズ

~ミステリー&時代小説~

不朽の名作シリーズが数多く誕生した「オール讀物」。その中からミステリーと時代小説にスポットを当て、作品や作家にまつわるエピソード、著名人よる作品についての想いなどを紹介するとともに、関連本など約180冊を展示・貸し出します。

- 会期:開催中~12月25日(土)
- 会場:千代田図書館9階 展示ウォール

1/30 (日) 文化・芸術でひもとく世界の“いま”② 韓国映画から学ぶ韓国現代史 一分断と民主化一

講師:権容奭(一橋大学大学院法学研究科准教授)

韓国映画が世界で受け入れられたのは、現代史の痛みや社会の矛盾に正面から向き合い、普遍的メッセージを放っているからでしょう。本講座では、韓国映画から韓国現代史を学びます。とりわけ、現代韓国を理解する上で欠かせない「分断」と「民主化」の歴史を理解していきます。



- 日時:1月30日(日)14:00~15:30(13:30開場)
- 会場:地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員:100名
- 参加費:1000円

今から400年前に遡る将軍徳川家康による江戸城築城および城下町整備に始まり、明治維新後も首府として維持され多くの文化財が残る千代田区。今回の展覧会では郷土資料を中心に、江戸・東京の名所を示す錦絵や写真、案内書などの資料をもとに千代田の歴史を紐解きながら風景の移り変わりを紹介しています。明治22(1889)年に建設されたニコライ堂の建築足場から撮影されたパノラマ写真や文明開化を象徴する建築物や名店、さらに江戸の面影に現在の風景を重ねた江戸城新三十六御門重ね図など身近な界隈の歴史に目を向けタイムトリップしてください。

- 開室時間:月~木 10:00~19:00、金 10:00~20:00、土 10:00~19:00、日・祝 10:00~17:00(入室は閉室の30分前まで)
- 会場:1階 特別展示室 ■観覧料:一般 300円、大学・高校生 200円(千代田区民・中学生以下、障害者手帳などをお持ちの方および付き添いの方一名は無料) ※住所が確認できるもの、学生証、障害者手帳などをお持ちください。 ■主催:千代田区立日比谷図書文化館 ■協力:千代田区観光協会 ■監修:後藤宏樹(前日比谷図書文化館文化財事務室学芸員)

↓ 小冊子さしあげます!



特別展にご入場いただいた方には、オリジナルの小冊子をお配りしています。今回の小冊子は、オールカラー(18ページ)に詳細な説明が掲載されている豪華版です。 ※小冊子をご入場された方へのお渡しのみとなり、郵送などは承っておりません。

常設展示室からのお知らせ

- ! 12月28日(火)の開室時間が変更となります。
- ▶ 10時~18時まで

